様式1

令和4年度　山梨県立ひばりが丘高等学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	自分に誇りを持ち自己を磨き、毎日を生き生きと学ぶ生徒。自分を見つめ困難に打ち克つ生徒。社会人として自立し役割を担うことのできる生徒の育成

山梨県立ひばりが丘高等学校校長　　加藤　幸一

本年度の重点目標	
	1　自主・自律的な生活態度の育成に努め、基礎的生活習慣の確立を図る。
	2　学ぶ意欲を持ち、夢の実現の為に各個人の個性を伸ばす指導に努める。
	3　他人を思いやり、敬愛し、協力と奉仕のできる豊かな心情の育成に努める。
	4　ドリカムプランを通じて生涯にわたって自己の成長を図ってゆく。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価

番号	本年度の重点目標：評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度末評価（令和5年2月1日現在）：自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	自主・自律的な生活態度の育成に努め、基礎的生活習慣の確立を図る。	すべての教員による組織的な生活指導の下、基本的生活習慣の確立と規範意識の向上に努める。 生徒会活動等の充実を図り、自主的自律的な生活の育成に努める。 教職員は、生徒にとって最も身近な社会人のモデルとして、自らの勤務時間やワークライフバランスを意識し、時間外在校等時間の縮減に努める。	学校評価アンケート 学校評価アンケート 勤務時間調査	○基本的生活習慣の確立と規範意識の向上については、生徒アンケートにおいても、肯定的な意見が9割を超えた ○生徒会活動に関しては、自主的、自律的な活動を目指したが、否定的な意見が2割近く寄せられてた。 ○勤務時間調査によると、時間外勤務は第3四半期までの平均で最も多い教員で週57分余り、全体平均は週15分弱となっている。	B	○全教職員が連携して取り組むことにより、生徒の基本的生活習慣の確立と規範意識意識向上が見られた。引き続き教職員が連携して取り組んでいきたい。 ○生徒のやる気を引き出し、生徒主体の活動を根気強く見守る指導が必要である。 ○全教職員がワークライフバランスを意識し、協働して勤務に取り組むことで効率的に仕事を進めることができた。
2	学ぶ意欲を持ち、夢の実現の為に各個人の個性を伸ばす指導に努める。	全教科・科目においてシラバスにより授業内容・評価規準（評価の観点）を明確にし、観点別評価を生徒にフィードバックすることにより、学習意欲を喚起させる。 基礎基本を大切にし、個に応じた学習を充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に取り組む。 ICT及びBYODを活用した学習支援を推進するとともに、特別支援教育の研修に取り組み、授業のユニバーサルデザイン化を充実させる。	授業観察・学校評価アンケート・授業アンケート 授業観察、授業アンケート 学校評価アンケート、授業アンケート	○観点別評価、授業改善、ICTへの取り組みについて、生徒アンケートにおいても、肯定的な意見の合計が8割を超えているが、そのうち、「ややそう思う」が5割強である。	A	○観点別評価については全教科で熱心に取り組んでおり、一定の成果は見られた。引き続き、示された評価が生徒の学習意欲につながる方法を模索していく。 ○ICTの活用は徐々に進んでいるが、ICT活用をさらに積極的に取り入れるとともに個別最適な学びを目指しているが、授業改善に今後も継続して取り組む必要がある。
3	他人を思いやり、敬愛し、協力と奉仕のできる豊かな心情の育成に努める。	集団活動やボランティア活動をとおして、自己肯定感、自己有用感や責任感、協調性を育成する。 教職員は生徒・保護者との望ましい関係を構築し、いじめを許さない雰囲気と意識作りとともに、理解啓発を進める。	学校評価アンケート いじめアンケート、学校評価アンケート	○生徒、保護者のアンケートでも望ましい関係の構築については肯定的な意見が9割近くになっているが、逆の見方をすると約1割は何らかの不満を抱えている。	B	○コロナ禍で集団活動が制限されており、ボランティアに関しても思うような活動ができていない。改善を目指したい。 ○概ね生徒・保護者とは望ましい関係を構築できているが、様々な課題に対して初動を素早くするなど、より大きな信頼を得られるよう努めたい。
4	ドリカムプランを通じて生涯にわたって自己の成長を図ってゆく。	「創作授業」・「総合的な学習・探究の時間」をとおして、自らの在り方生き方を踏まえて、自己理解から他者理解へと社会性を広げ、課題を解決する取り組みを行う。 「静聴の時間」・「生活体験文」をとおして、他者のことばに耳を傾け、自分を見つめ直し、客観的に自己を表現する力を養うとともに豊かな心の育成に努める。	学校評価アンケート 生徒アンケート	○教職員は「静聴の時間」、生徒は「生活体験文」が本来の目的を果たしていないと感じている。一方で、体験的な活動に関しては保護者からは高評価を得ている。	C	○ドリカムプランの活動が事務的に実施されていて、本来の意義や目的を見失いつつある。ドリカムプランの本来の意義や目的を見直し、育てたい資質を伸ばすために有効な手段を模索する必要がある。

学校関係者評価

実施日　（令和5年2月28日）

評価	意見・要望等
3	・基本的生活習慣の確立と規範意識の向上の指導に対する全教職員の意識が高く、それが成果としても表れていると感じる。 ・自主的自律的な活動のために生徒会活動は大変有効なので、2割の否定的意見の中身を分析し、より充実させていただきたい。 ・今後の課題に、「生徒主体の活動を根気強く見守る指導」の必要性を挙げているのはとてもよいことだと思う。単に見守るだけでなく、「やるべきことをやって見守る」ことが必要だと思うので、「やる気を引き出し」の部分のよりよい実践をより豊かに展開してほしい。また、それを共有することで学校全体の教育力の向上につながると思う。 ・基本的生活習慣の確立や規範意識の向上の必要性を生徒に理解させて、全職員が連携を取りながら指導に力を入れていることは、今後も継続して欲しい。 ・基本的生活習慣、規範意識は向上してきたように感じる。 ・学校内外における日常的なあいさつ等が積極的に行われると更に良いと思う。
4	・評価基準の明確化や観点別評価のフィードバックに高い意識で取り組み、一人一人を大切にした個別最適な学習への工夫も行うことで、生徒の意欲向上につながっていると思うので今後も引き続きより充実した教育実践づくりに期待している。 ・保護者アンケートの⑦「評価基準の明確化と意欲向上」に関する満足度について、肯定的な意見が85%と高いものの、「あまりそう思わない」の15%は、全項目中で最も高いので、保護者に伝えきれていない部分もあるのかと感じた。 ・ICTを活用した学習活動により、それが学習の理解につながっているようにするために、さらなる工夫と検証を期待します。 ・生徒一人ひとりに対し、個に応じた学習指導を行っている。 ・ICTを積極的に活用しようとしており、個別最適な学びに向けての取組が行われている。
4	・学校全体での教育相談体制の確立を目指す取り組みを高く評価したい。情報交換だけでなく研究にも力を入れており、こうした学校づくりは生徒にとっての安心感につながると思う。「自分は大事にされている」という実感があってこそ「思いやり」も生まれるだろうし、「みんなが大事にされる学校」という実感は「辛くなったら支えてもらえる」という大きな安心感につながると思う。9割の肯定的な意見に安堵するのでなく、1割の不満に目を向けようとする姿勢が素晴らしい。 ・生徒アンケートから、個を大切にする居場所づくりに成功していると思われる。より一層自己肯定感を高める教育活動の実践に期待します。 ・コミュニケーション力に課題のある生徒が多い中、ものづくり等の協働する場面を積極的に仕組み、成果につながっている。 ・いじめのない学校づくりによく取り組んでいる。
3	・ドリカムプランは貴校における特色ある活動であり、大変充実した内容と感じている。昨年度の学校評価では「自己評価」「学校関係者評価」共に高い評価だったので、今年度の「自己評価」の結果はとても意外だった。しかし、「本来の目的や意義」に改めて目を向け改善していこうという反省が出されたことに教職員の志の高さを強く感じた。現状に甘んじることなく、常に本質を大切にする姿勢は、一人一人の生徒を大切に思えばこそであろう。来年度の実践に大いに期待している。 ・ドリカムプランは素晴らしい取り組みだと思う。その目的・意図が十分機能し生徒に伝わるよう、生徒のニーズも取り入れながら、さらに工夫・改善を図り、積極的に推進して欲しい。 ・キャリア教育のために様々な活動を行っており、良い成果が出ていることがうかがえる。活動内容の見直しを図り、さらに向上させて欲しい。

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。